

新建 ちば

2020/5
No.271

新建築家技術者集団 千葉支部機関紙



「文化の森」育て—市民が楽しむ、市民の手による、市民文化—

・千葉市中央区



千葉県「文化の森」；左から 郷土博物館、県立文化会館、県立図書館（県庁舎 19 階からの展望）



撮影場所
：千葉市
中央区

“衣食足りて礼節を知る”というが、これを現代都市生活に当てはめれば、“人口・産業足りて文化を育む”とでもなるのだろうか。昨年の全国大会でも確認したことだが、千葉県も農・漁業県から京葉工業地帯を抱える工業都市へ、さらに人口も増えて首都圏の一角を担って存在感は増したと思う。そして更に、今後の高齢社会を迎えて、これからは自然環境の良さに加え、地域に根差した“生活を楽しむ都市環境”が求められる。

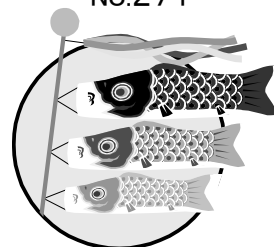
わざわざ東京まで出向かないでも、身近に文化を享受できる環境とそれを支える土壌が醸成される、市民の暮らしの展開。たまたま千葉県文化会館前の広場に行くと県民「文化の森」の銘板が掛かっていた。昭和40年代の友納知事の頃のものだ。それから半世紀、東京に出向く、あるいは東京から人を迎えて楽しむ文化から“市民の手による、市民文化を育む、市民主体の「文化の森」の時代」としたいものだ。
(文・写真: 泉 宏佳)

新建

ちば

2020年5月号

No.271



*** 目次 ***

- ・目次・企画予定表 2
- ・世界まち歩き17南ドイツ・フュッセンとその近郊 3
高山 登
- ・近況、そして新型コロナウイルスについて思うこと 6
鈴木 進
- ・新型コロナウイルス禍での近況報告 8
加瀬澤 文芳
- ・事務局だより 10

企画予定表

月	支部企画 住まいづくり研究会	その他企画	全国・近県支部 その他企画	その他
5月			14(木)東京支部:新 建創立50周年記念連 続セミナー→中止	支部幹事Web会議 第1・3(金) 20:00~
6月			25(木)東京支部:新 建創立50周年記念連 続セミナー→中止	支部幹事Web会議 第1・3(金) 20:00~
7月	仕事を語る会?		30(木)東京支部:新 建創立50周年記念連 続セミナー→中止	9(木)18:30~? 支部幹事会+交流会
8月				
9月				10(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
10月				8(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
11月			14(土)~16(月) 50周年記念集会 +研究集会→中止	12(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
12月	総会・忘年会			
1月	新年会			14(木)18:30~ 支部幹事会+新年会
2月				11(木)18:30~ 支部幹事会+交流会
3月				11(木)18:30~ 支部幹事会+新年会
4月				8(木)18:30~ 支部幹事会+交流会

3. 南ドイツ フェッセンとその近郊

世界で最も美しい湖畔の町といわれるハルシュタットから、列車とバスを乗り継ぎ南ドイツのミュンヘンへ。ここを拠点にして、現地のオプションツアーに参加し、訪れた世界遺産のヴィース教会やノイシュバンシュタイン城、ロマンティック街道の終点で中世の町並みフェッセンを紹介する。

■ヴィースの巡礼教会 世界遺産

この教会はドイツバイエルン州南部、ヴィースの田園地帯にある。1745年から1754年にかけて建てられた。1738年、ある農家の夫人が「鞭打たれるキリスト」の木像をもらい受けたところ、6月14日キリストの像が涙を流したという。この噂は「ヴィースの涙の奇跡」として広まった。1983年ユネスコの世界遺産に登録され、ロマンティック街道観光スポットの一つである。外観は牧場の中に建つ、非常に質素な教会であるが、ロココ様式の内部の装飾はヨーロッパ随一と言われており、特にその天井画は「天から降ってきた宝石」とも讃えられている。ヨーロッパで最も美しいロココ様式の教会として、年間100万人以上が訪れる。内部に入ると、外観からは想像できない程豊かな色彩と華麗な装飾に圧倒される。中央祭壇にあるのは「鞭うたれるキリスト」が涙を流したという像。

ロココ様式はヨーロッパを代表する様式で、ルイ14世からルイ15世の時代である18世紀頃の建築に多く使用されていた。またこの様式は、フランス宮廷や当時のヨーロッパ建築を代表する豪華な建築物にも使用された。

写真①ヴィース教会：ロココ様式の華麗な装飾の内観



■ノイシュバンシュタイン城

この城は高原地帯のどかな人口 3700 人の村シュヴァンガウにある。その山頂に自分だけの夢の城を築いたのがバイエルン王ルードヴィッヒ 2 世。彼はワーグナーに心酔し、耽美的芸術を愛した自分だけの城として 1869 年起工したが、彼の突然の死により未完成に終わる。しかし今日、ドイツロマンチック街道のフィナーレを飾るにふさわしい美しい白亜の城となっている。これほど美しい城であっても、世界遺産の登録はない。伝統的な建築方式に見えるが、石造りではなく鉄骨組みのコンクリートとモルタル製で、ドイツ城館に本来は必ずあるべき小聖堂や墓地がないことなどから、古建築保存を目的とするに値しないことらしい。

城まではチケット売り場付近から観光馬車かバスで行く手段があるが、徒歩で行き 40 分位かかった。見学は、整理番号順に 1 グループ 30 分間隔で見学するシステムであった。見学ルートは階段の上り下りの連続で迷路のように入り組んでいた。

写真②のお城の全景は、ビュースポットのマリエン橋から撮ったもの。ルードヴィッヒ 2 世は、ここからの城の眺めを楽しんだという。

写真②マリエン橋から見るノイシュバンシュタイン城



写真③ビュースポットのマリエン橋



写真④城の近くまで行く観光馬車



■フュッセン

フュッセンは人口約 1 万 5000 人。古代ローマ時代にヨーロッパ北部とイタリアを結ぶ街道に位置し、15～16 世紀にイタリアとの通商で繁栄を極めた。現在はノイシュバンシュタイン城やホーエンシュヴァンガウ城などの観光拠点の町。ビュルツブルクから始まる約 350km のロマンティック街道は、ここフュッセンが終点。写真⑤は、歩行者天国のライヒェン通りで、正面奥は小高い丘に建つホーエス城。アウグルブルク司教の夏の居城として建てられ、1500 年頃に現在のような形になった。窓の縁飾りとして描かれた“だまし絵”が特徴。

写真⑥は、お城の外壁に窓の縁飾りとして描かれた“だまし絵”の一部である。窓そのものも“だまし絵”になっている。最上の窓 6 か所が本物のガラスのある窓で、他は絵で壁面にペインティングされたもの。壁面を装飾するこの手法は、ホーエス城が元祖と思われるが、他にも教会を始め町のあちこちに数多く見られた。フュッセンは、“だまし絵”のまちとして印象深い。

写真⑤フュッセンの目抜き通り、ライヒェン通り



写真⑥ホーエス城のだまし絵：上の窓 6 枚以外はすべてペインティングされたもの



写真⑦壁面がだまし絵で装飾された建物



近況、そして新型コロナウイルスについて思うこと(雑感)

鈴木 進

新型のウィルスが急速に全世界に広がり、現代社会においてこれだけ多くの犠牲者を出すことになるとは考えもしませんでした。感染者が日本でも世界でも増え続けている状況、そして収束がまだ見えてこない状況に不安を感じずる日々です。このウィルス問題、機関紙でも取り上げる必要がありそうです。まとまりませんが思いつくままに書いてみます。

1. 近況・・・すっかり様変わりした生活

このところ、趣味関係や地域の防災関係の取り組み、新建や住まいと福祉の会、行政関係の仕事等々、ほとんどの予定がキャンセルになり、自宅で過ごす時間が圧倒的に増えています(私の周りの同年輩の方たちは、ほとんど同じ状況のようです)。

時間がたっぷりあるので、毎日の散歩(今は最低7,000歩を目標)、NHKの語学講座(英語に加え、4月から30年ぶりのスペイン語、覚えられない・・・早くも放棄しよう!)、読書、庭の花々の写真、水彩スケッチ等々を少しずつ楽しんではいます。時間がありすぎると集中できず、まとまったことができないことを改めて痛感しています。

5月1日の千葉支部のWeb幹事会の後、今週2つのWebミーティングを開催。この時期、顔を見ながらの感染心配のないミーティングはなかなかいいです。昨夜は、地域のWeb防災会を開催し、後半はWeb飲み会に移行。基本は集まっての会議と終了後の一杯ですが、Web会議は移動の時間も節約できるので、今後もうまく活用できるといいように思います。

4月後半に、かつて千葉大に留学し、今ではそれぞれの国に帰っている方たち(イタリア、スペイン、フランス、ドイツ)とメールで情報交換してみました。どこも感染者が多く発生している国で、一か月ほどは自宅にいる、大学はすべてWeb授業、仕事もなくなってきているなどのメールが送られてきました。ご本人も家族も感染していないことを聞いてほっとしました。

2. 国の感染対策へのいくつかの疑問

このところ、新型コロナウイルスに関して、インターネットや新聞で多くの情報を得てきました。そんな中で、今回の感染対策で一番疑問に感じたのは、PCR検査の数が少ないことでした。国も政府の委員などをやっている医療関係者(マスコミに登場する何人かの医療関係者も含めて)も、検査をすることにより、検査を求める人があふれる、患者が増えて医療崩壊につながるといった主張だったようです。しかし、このことにより、潜在的な感染者が多く発生して(感染者数の10倍以上と言われている)、新たな感染拡大につながったのではないかと思います。検査に関しては37.5度以上の熱が4日続くことなどが目安とされましたが、これが検査をさまたげる基準に使われてしまったようです。検査が遅れて亡くなった方が発生し、更に多くの医療関係者の方たちが検査の必要性を指摘してきたことで、最近、政府は「基準ではない、誤解だ」とか・・・いつもの逃げの手法ですね。

発生以降の国の対策は遅れ、二転三転するなど、とても的確な対応だったとは言えないのでは? マスクの配布は、各家庭に2枚とのこと、私のように7人同居の場合は7人で2枚!これに450億円を使うことが信じられません。各家庭では何とか工夫して、蓄えてあったマスク、手製の布マスク、キッチンペーパーマスクなどで対応しています。まして、まだ届かない状況では無意味、無駄になりそうです。必要なのは、医療や福祉関係機関にしっかりとしたマスクを重点的に配ることだったと思います。マスクの費用を含め、医療

の整備や休業や職を失った人たちへの補償に重点的に充てるべきだったと強く思います。

マスコミ情報では、マスクも学校の休校もしっかりとした準備や議論がなされないままに決められたようです。緊急なことと言え、全国民に関係すること、効果を十分予測し、対策を練ったうえで国民にも知らせ、思い付きではない施策を実行してほしいものです。

緊急事態宣言下での国民や企業の対応もあって、この数日、感染者が減ってきました。若い世代にも重症化する人がいる、子供たちに感染者が出ているなどで感染を防ぐ対応が全世代に徹底してきた成果だとも思います。一方、休業や閉鎖に追い込まれた企業、収入が大幅に減少した方や失業した方も多くいます。宣言をした以上、支援策が十分にとられなければなりません、国が自治体に任せようとする姿勢が見え隠れしています。

これから、徐々に経済活動も社会活動も再開されそうですが、全世界の感染は簡単には収まりそうにありませんし、第二次の感染情報も出てきています。1918年に発生したスペイン風邪では、世界で2,000~4,500万人の方が亡くなり、日本でも45万人の方が亡くなったそうです。日本では、前後に2回の感染が発生し（一次より二次での感染の致死率が高かったとのこと）、収束まで約2年かかっています。私たちも引き続き気を引き締めて、感染防止対策はしばらくの間、継続しなくてはなりませんね。

今回の日本のトップの迷走する姿勢、国民にきちんと説明しない姿勢に比べ、私はドイツのメルケル首相が国民に向けたメッセージにとっても感心しました（フェイスブックのドイツ在住のギュンター りつこさんという方が翻訳したものを参照）。

このメッセージでは、「民主主義国家として、政治的決定は透明性を持ち、詳しく説明されなければならない。この危機を克服できることは間違いないが、多くの愛する人を失うことになるかもしれない。今後の私たちの断固とした対応にかかっており、現在の制限を受け入れ、お互いに助け合いましょう」と民主主義を守りつつ、ウィルスと戦う姿勢を伝えています。「旅行や移動の自由を苦労して勝ち取った私のような人間にとって（メルケル首相は東独出身）、生活の制限は絶対に必要な場合にのみ正当化される。民主主義国家においては、そういった制限は簡単に行われるべきではなく、一時的なものでなくてはならない。人命を救うため、この制限は避けられないことなのです」と続きます。そして、医療関係者やスーパーの人たちなどへの感謝の気持ちを表し、「孫」が祖父母に対し、寂しくないよう、そして愛情と友情を示すために、訪問することを避け、Skype、電話、メール、手紙を書くという具体的な方法まで提案しています。このような心に響くメッセージは、国民がそれを理解して厳しい制限に対応していくことに繋がると思いました。

3. 建設や居住環境に関わる課題

まだ十分整理していませんが、建築関係の分野でも、製品が届かない、職人が来ないなどで工期が遅れる、下請けへの支払いが滞るなど、様々な問題が生じています。

住宅を建築した方たち、マンションを購入した方たちもこれからのローンの返済に不安を持っているという声も聞こえてきます。不安定雇用でネットカフェでの生活を余儀なくされてきた若者の収入が途切れて住むところが無くなる状況が生じ、アパートに住んでいる方々にも同じような状況が生じています（*厚労省では、この4月20日から「住居確保給付金」の対象を離職・廃業から2年以内または休業等により収入が減少し、住居を失うおそれがある方と変更し、利用しやすいようにしている）。建築関係、居住環境の分野まで新型コロナウイルスの影響が押し寄せてきています。これらのことについても、支部の中でも十分情報交換し、課題を整理していけたらいいのではないかと思います。

新型コロナウイルス禍での近況報告

(株)ゆま空間設計 加瀬澤文芳

新型コロナウイルス禍で設計事務所を営む小生の近況及び周りの建築業界の状況を報告します。コロナウイルスとは風邪のウイルスで、中にはSARSやMERSのような危険なものもありますが、それほど重篤な症状には至らないものが多いようです。今回騒ぎになっているのは2019新型コロナウイルスで、治療法が確立されていないことが恐ろしい。とりあえずここではコロナと略称します。

● 3月竣工した障害者グループホームの様子

住宅設計の仕事が中心なのですが、近くの社会福祉法人の委託で作業所やグループホームの設計監理に継続的に携わっています。3月に竣工したグループホームはすぐ満室入居となりました。東庄町の施設ではクラスターが発生し大変なことになってしまいましたが、こちらは隣接する作業所共、ほぼ普段と変わりなく運営されているそうです。でも一人でも感染者が出れば、施設はシャットアウトになるといいます。



奥が3月に竣工したグループホーム
手前右は一昨年竣工

● 現場の状況

施工中の住宅現場が2件あります。1件（丸忠工務店）は木工事の最中です。人と接触しないで黙々とやる仕事ですから大工事にコロナの影響はあまりありません。ただ住設機器が入荷しなかったので全体工期はかなりずれ込みました。便器や手洗い等の衛生陶器は遅れに遅れましたが、ようやく入荷するようになりました。



一人黙々と仕事する大工さん

中国ではコロナが収束し、生産が再開して部品が届くようになったのです。ただし換気扇やIH、食洗器といった機器類は相変わらず滞っています。この現場でも設置されたキッチンにレンジがついていません。5月中にはなんとか届きそうです。一時は代替品で仮置き渡しという話も出ました。確認機関から住設機器が設置されていなくても完了検査を行うとの通知を受けました。しかしそれでは施主さんが納得しないでしょう。そんなことにはならないで済みました。他の1件（かしのき建設）は基礎工事ではほ

とんど影響ありませんでした。昨今の事情でプレカットを予定していましたが、工務店の他の案件が遅れて大工職の手が空いてしまい、若手大工に手刻みさせるということになりました。担当の大工と話したらなかなかの好青年で、手刻みするのは何年ぶりかだと嬉しそうでした。かえって良かった。施主さんは新潟在住で建前後の屋根や外壁の選択がありますが、東京経由で千葉に来ることは危険なので、オンライン対応としました。サンプルカタログを送り、Zoomで打ち合わせます。試行もうまくいきました。けっこう面白がってくれています。



確認・保険機関の配筋検査
滞りなく行われている

このように私の周りの施工者は個別依頼の注文建築で、継続の仕事に追われています。丸忠の斎藤さんは長いこと休みがないといいます。付き合いのあるリフォーム専門業者はお客さんと毎日会うことになるけれど、普段より仕事量押えてぼちぼちやっているとのことでした。ただし毎朝の体温測定は欠かさないそうです。いっぽう大手建設会社は施工休止、分譲建売系のハウスメーカーも経済の悪化予想で建てても売れないと判断し生産ストップ。大工職はじめ傘下の職方は仕事が無くなり途方に暮れていると聞きました。それなら昨年の台風被害復旧で職人不足に悩む南房総に行けばいいと思いましたが、まさにその動きが顕著で南房総に流れているとのこと。せめてものけがの功名、復旧工事が進むことを祈ります。

● 設計

予定していた打ち合わせは延期のまま再開の見通しありません。Zoomで進めることを検討していますがまだ軌道にのっていません。LIXILやTOTOのショールームは閉鎖したままです。当初は何日までと掲示されてましたが、今は無期限です。TOTOときたら案内板が白紙です。それでも営業所に電話すると繋がります。全員テレワークで自宅で電話対応しているのです。ただ打ち合わせはメールや電話でできますし、必要なサンプルは取り寄せられます。実物を見に行くことができないのが不自由ですが、気持ちを切り替えればこんな仕事のやり方もありかと思えます。当事務所のスタッフ（娘）は大阪在住で、もともとテレワークだったのですが、保育所に子供達を連れていけません。幼い子供を抱えての自宅勤務は事実上できない状態です。設計は進まない、この状況で新しい仕事の話はまず出てこない。どうしようかと思案の日々です。

○支部幹事会＋交流会

コロナの影響で3月の幹事会から開催出来ていません。皆で集まれないならWeb会議を行なおうという事で4/23と5/1に試行しました。高齢者ゆえか慣れない人が多く初めは上手く行きませんでした。二回目は概ね会議らしくなりました。

私のパソコンにはカメラが付いてない為、慌てて買いに行きましたがリモートワークの影響で何処も売り切れ!? ノートパソコンも品薄になっていました。ネットで中国製のWebカメラを購入(日本製はほぼ売切れ)しましたが4月末に届く予定がどんどん遅れ、ようやく5/10に届きました。その為、音声のみでの参加でした。が、久しぶりに皆さんの顔が見れ元気な姿が確認でき良かったです。

緊急事態宣言が5月末まで延期され、このところ感染者が減少していますが先がなかなか見通せないという事で月2回ほどWeb会議を行なう事になりました。

会員の皆さんも参加しませんか。(中安)

※参加の連絡: メールなどにて事務局までください。

○その他企画

花見の企画などもコロナで中止になりました。近隣支部や全国的な企画も中止または延期になりました。皆で集まり何かを行う事が難しいですが、Web会議が上手く機能するようになれば企画もWeb上で行う事が出来るかもしれません。内容は限定されるかもしれませんが、これから幹事会で詰めていく予定です。会員の皆さんも良い企画があれば提案して下さい。(中安)

○その他

今号では鈴木氏と加瀬澤氏がコロナに関する影響などを寄稿しています。非常事態における政治家や役人の鈍感さが露見したと思います。憲法に非常事態条項がないとダメなのでしょうか?(中安)

以上お問い合わせは事務局まで。

事務局だより

全国・東京支部実行委員会では11月に50周年企画と研究集会開催に向けて取り組んできましたが、コロナウィルス禍で年内に集会するのはとても無理な状況と判断し来年に延期の方向です。正式には6月全国幹事会(WEB)で決まります。研究集会に変わるものをWEBで実施することが検討されています。企画案内の本頁も会員の皆さんのひとこと欄としたいと勝手に考えています。その時はご協力よろしく。(加瀬澤)

○会計より 過去年度会費を未納の方は、下記口座まで最寄りの銀行よりお振込み下さい。

振込先: 千葉銀行みつわ台支店口座番号: 普通 3211569 名称: 新建築家技術者集団千葉支部

新建千葉支部事務局: 株式会社 ゆま空間設計

TEL: 043-253-8801 FAX: 043-253-8806

千葉市若葉区みつわ台5-4-14

E-mail: office@yumaku-kan.co.jp

新建千葉支部ホームページ : <http://www5e.biglobe.ne.jp/~shinken/chiba/>

発行: 千葉支部幹事会
編集: 千葉支部幹事会
編集ワーク: 中安博司

編集後記

新型コロナウイルスが全国に広がり4月7日緊急事態宣言発出、5月4日に5月末まで延期しました。まだまだ感染防止対策が必要です。気長に付き合ってください。(中安)